

雨にも
ケロッと!

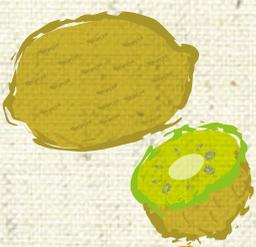
果樹の病害防除には

ベンレート[®] **殺菌剤**
水和剤

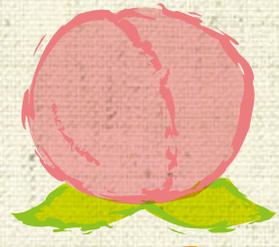


ベンレートは住友化学(株)の登録商標です。

いろいろな果樹につかえる。
いろいろな病害でつかえる。



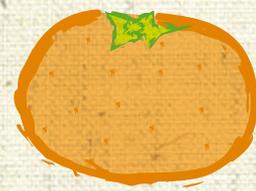
キウイ
フルーツ



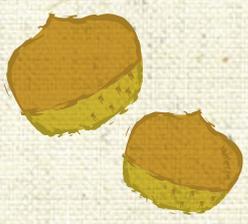
桃



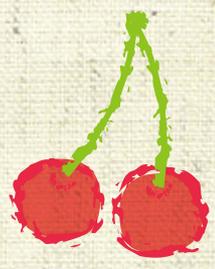
葡萄



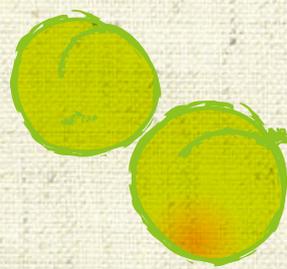
蜜柑



栗



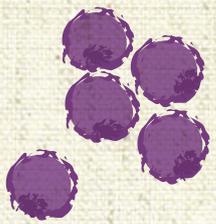
桜桃



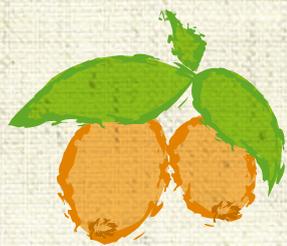
梅



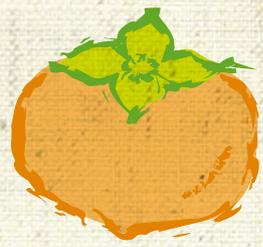
林檎



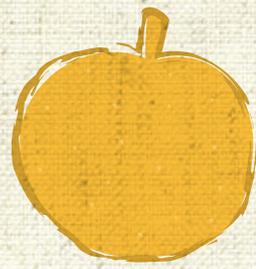
ブルーベリー



枇杷



柿



梨



2021年11月現在の登録内容

適用病害と
使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベノミルを含む農薬の総使用回数			
みかん	そうか病、灰色かび病	2000~3000倍	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内			
	貯蔵病害(白かび病)	4000倍								
かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害 (緑かび病、青かび病)	4000~6000倍			2回以内		2回以内	2回以内		
	貯蔵病害(白かび病)	4000倍								
りんご	褐斑病、腐らん病 すす点病、すす斑病 黒星病、黒点病 うどんこ病、輪紋病	2000~3000倍			4回以内		4回以内	4回以内		
	モニリア病	2000倍								
りんご(苗木)	白紋羽病	1000倍			—		植付直前	—	10~30分間根部浸漬	—
なし	胴枯病、黒星病 うどんこ病、輪紋病 心腐れ症(胴枯病菌)	2000~3000倍			200~700ℓ/10a		収穫前日まで	4回以内	散布	6回以内 (塗布は2回以内、 散布は4回以内)
	枝枯病 胴枯病	20倍			—		3月~6月	2回以内	マシン油乳剤で 希釈し塗布	
かき	落葉病、うどんこ病 炭疽病、すす点病	2000~3000倍			200~700ℓ/10a		収穫前日まで	6回以内	散布	6回以内
	疑似炭疽病	2000倍								
ぶどう	枝膨病	200倍	休眠期	1回		4回以内 (休眠期処理は 1回、 散布は3回以内)				
	晩腐病、つる割病	200~500倍								
	黒とう病	2000倍								
	褐斑病、うどんこ病 灰色かび病、晩腐病	2000~3000倍								
もも	芽枯病	2000倍	収穫45日前まで	3回以内		3回以内				
	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 うどんこ病	2000~3000倍								
ネクタリン	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病	3000倍	収穫3日前まで	2回以内		2回以内				
	おうとう						灰星病、褐色せん孔病			
うめ、あんず	黒星病、すす斑病	3000倍	収穫7日前まで	1回	1回					
くり	実炭疽病	2000~3000倍	裂果前但し、 収穫14日前まで	4回以内	4回以内					
キウイフルーツ	果実軟腐病、すす斑病	2000倍	収穫7日前まで	5回以内	5回以内					
びわ	灰斑病	2000~3000倍	収穫14日前まで	3回以内	3回以内					
	ごま色斑点病	2000倍								
ブルーベリー	バルデンシア葉枯病 斑点病	3000倍	収穫7日前まで	1回	1回					
	ピタヤ	炭腐病	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	2回以内				
いちじく	株枯病	1000倍	1~10ℓ/樹	収穫30日前まで	5回以内	株元灌注	5回以内			

●果樹以外の水稻・野菜・花等にも登録があります。詳細は、ラベルをご確認ください。

使用上の注意事項(抜粋)

- ・使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- ・りんごのモニリア病に使用する場合、多発条件下では効果が劣ることがありますので発病初期に時期を失しないように散布してください。
- ・なしの枝枯病、胴枯病に使用する場合は、マシン油乳剤で希釈し、病斑部及びその周辺に1~2回塗布してください。なお、病斑部を削り取った後塗布する場合は木質部が見えない程度に表皮を薄く削ってください。
- ・本剤及び同系統の薬剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った例があるので過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる薬剤を組み合わせ使用してください。
- ・本剤はエトフェプロックス乳剤またはダイアジノン乳剤と混用した場合、凝固物を生成するため混用をさけてください。
- ・適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- ・本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- ・本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- ・使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- ・作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- ・水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- ・施設内に水産動植物を飼っている水槽等を置かないでください。
- ・使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器・空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- ・直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

03R11K21B30:0G

2021年11月作成(小城プロデュース)

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCC GROUP

住友化学

〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号

お客様相談室 0570-058-669

農業支援サイト 農力 <https://www.i-nouryoku.com>

